日本歯科大学附属病院
病院長
小林 隆太郎氏

2027年末までの蛍光灯製造・輸出入禁止に備え
いち早く切り替え工事を実施

病院約7,000本の蛍光灯をLED化 患者の居心地の良い空間を実現した日本歯科大学附属病院

2027年末までに製造と輸出入が禁止されることが決まっている蛍光灯。これを取り替えられなくなる前にLED化する動きが、全国の病院やクリニックでも広がっている。日本歯科大学附属病院は、院内の「暑さ対策」と省エネも兼ねて、全館約7,000本の蛍光灯をすべてLEDに切り替えることを決定。イオングループの設備管理会社であるイオンディライトに工事を依頼した。

「館内環境をもっと快適にしたい」暑さ対策で全館のLED化を決定

日本歯科大学附属病院は、JR中央総武線の飯田橋駅から徒歩1分の場所にある大学病院だ。1907（明治40）年10月に私立共立歯科医学校（現・日本歯科大学）の附属病院として開設され、間もなく120周年を迎える。

「1987年に現在の場所に移転しました。駅から徒歩1分という便利な立地にある大学病院は、全国でもかなり珍しいのではないでしょうか」と語るのは、病院長の小林隆太郎氏である。

2025年4月に就任した小林氏は、1987年に現在の場所に移転してから38年が経過した病院の建物や設備について、段階的に更新していく方針を掲げている。

実際のLEDへの入れ替え工事の様子。日本歯科大学附属病院の館内にある蛍光灯は約7,000本。これをすべてLEDに置き換え、しかも診療に影響を及ぼさないようにするためには、休日や閉院中などの限られた時間だけを使い、短期間で工事を終わらせなければならない。このような課題を速やかにクリアができるのは、「イオンディライト以外にない」との判断に至ったという

日本歯科大学附属病院
1907（明治40）年10月に「共立歯科医学校附属医院」として開設。2026年に設立120周年を迎える。4つの総合診療科と、小児歯科、矯正歯科、口腔外科、歯科麻酔全身管理科など、歯科を中心とする専門の診療科のほか、内科・外科も併設。日々進歩している医学・医療に遅れることなく良質な医療を提供するため、それぞれの診療科や診療センターが核となって最先端医療に取り組んでいる。また、医育機関として、日本歯科大学で学ぶ歯科医学生や研修歯科医、経験の浅い歯科医師、特殊な歯科技術を学ぶ歯科医師のほか、他の歯科医療専門学校で学ぶ歯科衛生士・歯科技工士を目指す学生なども広く受け入れている。

「患者さんが寛ぎやすい環境を整えることはもちろん、院内で働く先生方や学生、スタッフの皆さんが快適な環境のもとで働けるようにしたいと考えています。その一環として、全館のすべての照明を、蛍光灯よりも明るく、低発熱・省電力で長寿命のLEDに変更することにしました」

LED化を決めた直接の理由は、2027年末までに蛍光灯の製造と輸出入が禁止される昨今の事情に対応するためであったという。しかし、病院にはそれ以上に大きな、切実な悩みがあった。小林氏は、「館内の暑さを何とかしたかったのです」と全館LED化に踏み切った事情を説明する。

「温暖化の影響もあって、ここ数年、夏場の院内の室温は非常に高くなっていました。通院や入院されている患者さんたちから『暑い』と言われることが多くなったので、空調の温度をもっと下げようかと思ったのですが、電力消費量が上がり過ぎて契約電力容量をオーバーしかねないことが課題でした。そこで空調以外の電力消費量を減らし、その分を空調に充てるため、全館の照明をLED化することにしたのです」

確かな仕事を評価して イオンディライトを選定

工事業者として日本歯科大学附属病院が選定したのは、イオングループのファシリティマネジメント企業である、イオンディライトであった。

イオンディライトは、イオングループが国内や海外で展開するスーパー、ショッピングモールをはじめ、様々なビルや施設の建物管理を行っており、日本歯科大学附属病院も2023年から同社に学校、病院などの建物管理を委託していたのだ。

「プロとしてのサービスの質の高さはよく分かっていましたし、何より伴走支援で本学や病院の建物の状況を知り尽くしてもらっていることが、選定の決め手となりました」と小林氏は明かす。

また、イオンディライトがイオングループの一社であり、スケールメリットを活かしたLED価格の優位性や、小規模な電気工事会社と違い、大規模な動員によって短期間で工事を完了できることなども高く評価されたという。

とはいえ、入れ替え工事はスムーズに始まったわけではない。正式契約を交わすにあたり、日本歯科大学附属病院が直面したのは、予算の問題である。

イオンディライトが最初に提示した工事費の見積額は、日本歯科大学附属病院の想定を大きく上回るものだった。

LED化が完了した診察室（左）と1F総合受付（右）の様子。患者からは「以前に比べて院内の雰囲気が明るくなった」と好評。照明の電力消費量が減り、空調の温度を下げられるようになったことで、「暑さ」対策という本来の目的も果たした。「不安に思って来院される患者さんが一番目に付くのは照明です。光、色は人の気持ちを左右します。環境、空間のコーディネートとしても照明は非常に重要なのです」（小林氏）

「そこで、何とか費用を抑えられないでしょうか？ とご相談したところ、施工方法を柔軟に対応いただき、結果的に見積額も大きく下がりました」（小林氏）

このように、顧客の要望に応じて柔軟に提案の見直しができるのもイオンディライトの強みだ。創業以来、50年以上にわたって膨大な設備工事や建物管理を行ってきたイオンディライトには、確かな施工技術はもちろんのこと、多様な顧客ニーズに応えられる創意工夫や現場の状況に応じた作業コントロールなどの様々な「引き出し」がある。

しかも、非メーカー系のファシリティマネジメント企業であるため、特定メーカーの器具や管球に縛られることなく、顧客にとってベストな組み合わせを調達・提案できるのである。

全館LED化で消費電力削減、空調改善を実現 明るくて訪問しやすい病院に

こうして、日本歯科大学附属病院のLED化工事は2025年5月にスタート。

「本格的に暑くなる前に工事を完了させてほしい」という病院の強い要望に応えて、患者が大勢いるロビーや待合室、病室については6～7月ごろまでに工事を終わらせ、8月には全館のLED化が完了した。わずか半年足らずという非常にスピーディな工事であった。

「すべての照明をLED化した結果、電力消費量は約200kWも下がり、その分、全館の空調温度を下げることができました。おかげさまで、今年の夏は患者さんたちから『暑い』という声をほとんど聞かなくなりましたし、空調の温度を下げても電気代は以前に比べて安くなっているので、導入効果は大きかったと思います」

「暑さ」対策として実施したLED化ではあるが、小林氏は「蛍光灯をLEDに換えたことで、院内の雰囲気が非常に明るくなり、清潔感も増しました。病院の存在理由が治療だけのための場から、予防や再発防止のための場に変わっていることを考えると、患者さんに気楽に訪問してもらえるような環境を整えることは非常に重要です。その意味でも、明るくて訪問しやすい病院になったのは、非常に良かったと思います」と満足そうに語る。

日本歯科大学附属病院は今後、イオンディライトと協力しながら、病院以外のLED化も推進する計画である。

お問い合わせ
ÆON delight
イオンディライト株式会社
〒101-0054
東京都千代田区
神田錦町1-1-1
帝都神田ビル
https://www.aeondelight.co.jp/